

特集

ユマニチュードは

何が違うか Ⅰ

その有効性と可能性

認知症ケアの新しいメソッドとして注目を浴びる「ユマニチュード」。

①見る、②話す、③触れる、④立つを「4つの柱」とする、とても具体的で実践的な150に及ぶケア技術です。

ただし、単なるハウトゥーではありません。

「人とは何か」「ケアする人とは何か」を問う哲学と倫理とを土台とし、それを体現するにはどうしたらよいか？を試行錯誤した末の方法論です。

この方法は、認知症の人の反応に、たしかに「違い」をもたらします。

それは、病状が奇跡的に回復したからではありません。

では、なぜユマニチュードは、そのような「違い」をもたらすのでしょうか？

一方、(ユマニチュードは)「奇跡」「魔法」、あるいは逆に

「これまでも誰もが試みてきた当たり前のこと」などの声も聞こえてきます。なぜユマニチュードは、時に奇跡的な効果をもたらすの？

それってたまたまや気のせいじゃない？ 誰でもやってる普通のことだよね？

いったいユマニチュードは何が違うの!?

そんな疑問に、科学的・医学的観点も含めてお答えします。

人間の尊厳を取り戻すために

院で看護師は、救命と治療目標達成のために診療の補助業務に
まわっています。忙しいことを理由に直接的ケアが単なる「業務」
でこなされる一方で、安全を確保するための観察が看護師の重
任業務となりつつあります。そのような環境では、せん妄や、自
に似たような症状が生じる人も少なくありません。

期療養施設でも、認知機能の低下した人の増加に応じたケアの
が十分に整えられていないことから、これまで述べてきた「レ
にに応じたケア」を実施することができず、健康の回復も維持も
くなくなっています。

かし今、わたしたちの目の前にいる健康に問題がある人、障害
っている人、高齢の人を「個人」として尊重し、(1) その能力
態を正しく観察し、評価と分析を行うこと、(2) 見つめ、話し
、触れ、立つことや移動を効果的にサポートすること、そして
その行動の抑制も強制も行わない環境をつくることができれば
、を受ける人の能力を維持したり改善することができるはずだ
とは考えています。

章では「第2の誕生」という言葉で、他者によって認められ
るが人間の尊厳の源であることを述べました。しかし病や障害を
ことによって、それは容易に崩されてしまいます。そこで再び
の尊厳を取り戻すためには、「見る」「話す」「触れる」「立つ」
の援助が必要です。以下、このユマニチュードの4つの基本の
ついて解説していきます。

Figure 5 et al. Delirium in elderly people. Lancet. 2014 Mar 8;383(9920):911-22.

図1 ユマニチュードの4つの柱

040



見る



触れる



話す



立つ

ユマニチュードの
“4つの柱”

『ユマニチュード入門』、
p.39～、医学書院、2014

